



# 例会報告

高山西ロータリークラブ

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- |       |                           |         |       |
|-------|---------------------------|---------|-------|
| ● 例会日 | 毎週金曜日 12:30~13:30         | ● 会長    | 古橋 直彦 |
| ● 例会場 | 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988 | ● 幹事    | 遠藤 隆浩 |
|       | 大垣共立銀行 高山支店 4F            | ● 会報委員長 | 塚本 直人 |



梅雨明けの予感 脚手 康介

## <会長の時間>

先の日曜日、下呂市雲雲会館で開催されました国際ロータリー 2630 地区第 30 回飛騨地区インターアクトクラブ合同研修会に行ってきました。

現在、飛騨地区には 3 つのインターアクトクラブがあります。

下呂 RC スポンサー・・・益田清風高校

高山 RC スポンサー・・・斐太高校

高山西 RC スポンサー・・・飛騨高山高校

合同研修会には益田清風高校にアメリカから交換学生として在学中のエマ デボザートさんを含め 3 校から 72 名の生徒の参加でした。研修会では「おおしまゆかこ」さんによる姿勢・呼吸・発声・発音等、主にボイストレーニングのグループレッスンを受講しました。

研修会の最後に地区のインターアクト委員長で 上野 RC の 榎原氏の講評のなかでこんな話がありました。「ロータリークラブは会員が職業奉仕以外にも、何か社会に対し奉仕活動を行う団体である。その社会への奉仕活動とか、ボランティア活動を青少年（新世代）まで広げたいとの思いから設立されたのがインターアクトクラブです。」この様な意味合いの話だったと思います。

ここでインターアクトクラブについておさらいをします。インターアクトは 12 歳から 18 歳までの青少年が集まって活動するクラブです。高等学校または地域社会を中心にクラブを結成します。会員は仲間と楽しく活動しながら視野を広げ、行動力を身につけ、将来のリーダーとなる為のスキルを学びます。

インターアクトクラブはロータリークラブがスポンサーとなって結成されますが、そのほとんどが経済的な支援を得ずに、自主的に運営されます。西クラブが飛騨高山高校にクラブを設立した際もまず、地元インターアクトクラブのニーズがあるかどうか調べ、次にクラブをつくる高校に協力が得られるか打診し、高校の賛同を得てスポンサーとなってインターアクトクラブの結成となったと思われま。また、顧問教師を決め、スポンサークラブの高山西 RC と学校側の連絡役を務めて頂く・・・この様な過程を経て今に至っているとおもわれます。

現在、顧問の荒川先生と我がクラブは大変良好な関係です。歴代の会長・幹事、インターアクト委員長以外の会員も、深い繋がりが出来ています。また、生徒さんも韓国派遣時激励金贈呈の際や年次大会報告時例会に来て頂き報告会もあり、西クラブからの支援についても理解頂いていると思います。

今年度は校長先生が代われ、ロータリーと両校のインターアクトクラブとの関わりについてもより深く理解を頂きたく、高山 RC ・高山西 RC が合同で、研修会後に懇親会を開き意見交換や懇親を深めさせて頂きました。参加頂きました顧問の先生、洲岬濃飛グループガバナー補佐、両クラブの会長・幹事・正副のインターアクト委員長さん、長い一日でしたが御苦労さまでした。

また、インターアクト委員会は両クラブが共同で行う事業や申し送り事項も多く、副委員長さんは次年度委員長へ持ち上がる事になっていますので、山下直哉さん、次年度も宜しくお願ひします。

## <幹事報告>

◎リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成生同盟会 会長より

・平成 27 年度リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成生同盟会 定期総会の開催について

日時 8 月 25 日(火) 講演 10:00~ 総会 11:00~

場所 東美濃ふれあいセンター「歌舞伎ホール」

## <受贈誌>

可茂 RC (会報、活動計画書)、米山記念奨学会(ハイライトよねやま 184)

## <出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	36 名	2 名	38 名	45 名	84.44%
本日	36 名	—	36 名	45 名	80.00%

## <本日のプログラム>

## ガバナー補佐訪問



国際ロータリー第 2630 地区濃飛グループガバナー補佐 洲岬 孝雄 様

はからずも、この度濃飛グループガバナー補佐という重責をいただきました、高山クラブの洲岬孝雄と申します。あまりに重責でございますので、非才をもってそれに耐えられるや否や、はなはだ戸惑っている次第でございますが、専心奮闘と申しますか、皆様方のお力をいただきながら、又このロータリーの歴史にそむかぬよう努めてまいりたいと存じますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。私の役目といたしましては、R I 会長のテーマ、岡田ガバナーのソロ

世界へのプレゼントになろう

## 例会報告

ーガンを皆様にお伝えするとともに、地区に対する意見、ご要望をお聞きし、地区とクラブのパイプ役として努めてまいりたいと思います。

本年度R I会長は、コロomboの「ラビ」ラビンドランという方で、その方の掲げられたテーマは「世界へのプレゼントになろう」でございます。これを受けて岡田ガバナーはスローガンを「過去・現在・今、行動するロータリアン」とされました。そして、それを具体化するために五つの活動方針を重点目標とされました。それは 一、会員増強と維持 一、財団寄付の推進 一、人道的事業の参加と推進 一、青少年(新世代)への貢献 一、デジタル化の推進とオンラインツールの利用 でございます。さて、R I会長のテーマ「世界へのプレゼントになろう」でございますが、中々わかりにくい、非常に難しいテーマであると思っておりますが、このテーマを皆様にもわかりやすく、どう説明するか悩んでおりました所、丁度、月信の六月号に西クラブの地区広報部門委員長、伊藤松寿さんがこれについて、わかりやすく説明しておられました。それをそのまま引用させていただきまして、言わば受売りでございますがR Iのテーマについて説明させていただきます。一般的にひとはプレゼントする時、何をプレゼントし、又、プレゼントされるのだろうか。今回のR Iのテーマは「世界のプレゼントになろう」であって、決して「世界へプレゼントをしよう」ではない。では「プレゼント」ということについて考えてみると、プレゼントの本質には「モノ」「コト」「ココロ」がある。ロータリアンクラブやロータリアンにとって「モノ」とはポリオワクチンに代表されるものであり、「コト」とは奉仕活動そのものであり、「ココロ」とは四つのテストの実践にほかならない。従って「プレゼント」になるものとは、ロータリアンクラブの存在とその奉仕活動になると考えられます。各クラブで行われる地道な奉仕活動の実践とR Iへの様々な協力により、世界へ通じる道が開かれるのである。こう書いてございました。将に、言い得て妙でございます。何でもいい、世界中にいいことをしよう。まずは日本国内でということでございます。

さて、R I会長、岡田ガバナー共々、最優先課題としておりますのが、毎年言われ続けております会員増強の問題でございます。歴代のガバナーや各クラブの会長さん始め役員の皆様が一生懸命、増強や退会防止のために、それぞれが努力され、工夫や手当てを講じてこられました。が、会員減少に歯止めがかからず、それはクラブの存続、運営にかかわることでございますし、その危機的状況を打破するため、今一度増強の大切さ、必要性を再認識し一層のご協力をお願いしなければならないのが現状でございます。国際的には、英国、日本、米国、カナダ、オーストラリアといった先進国が減少しております。インドは十年前にガタガタになってしまいましたが、皆が色々工夫し魅力あるクラブとして必死に努力したお陰で増えたようでございます。人口が増えたのではないのです。一人一人のロータリアンが会長を中心に、必死に増やそうという気持ちになって増やしたのです。増強している国は、インド、台湾、韓国の東南アジアや発展途上国です。時代の変化に負けず成長を続けており、経済危機の最も大変なイタリアでも会員が増えております。日本でも東日本大震災の被災地の東北地方が厳しい環境の中でも増員しております。会員の減少の要因は景気が悪いという経済社会の悪化や深くロータリアンを理解せずに、また理解させない。とロータリアン自体の変化に対しての対応、改善不足などを理由にしてしまっていますが、そうではなくて、各クラブは時代の変化に対応すると共に、地域社会のニーズに応じたクラブのあり方を求め、魅力あるクラブ活動、魅力ある例会にしていけば、退会防止も会員増強も可能であると思っております。そこで岡田ガバナーは、各クラブ純増一名以上の純増を、会員五十名以上のクラブは二名の純増を達成してほしいと願っておられますので、貴ク

ラブの会員増強委員会を中心に、そのノルマを達成してほしいと思っております。

後、ロータリー封団の一人150ドル以上の寄付、また1989年以来26年続いております地区I A韓国派遣をはじめとする高校生・青少年交換を進めてほしい。これはいずれも、ガバナーの重点目標のひとつひとつでございます。又、地区委員会へ出向していないクラブがあるようで、できれば、各クラブから理事会の承認を得て、一人ずつは出てほしいというのが、ガバナーの願いでございます。以上がR I、地区からの要望でございます。

さて、ロータリーの組織は、R Iを頂点とするトップダウンのように思われがちですが、そうではなく、あくまで各クラブが基本であると思っております。各クラブには、それぞれ独特のカラー、風があり、又、個々のクラブは歴史と伝統を異にしており、それぞれのクラブの自立性・独自性を十分尊重していきまので、敢えて細かいことを申し上げるつもりはありません。唯、ひとつだけと申すのであれば、それは品のいいクラブでいてほしいと思っております。品格・品質・品性。私は比較的若いうちにこのクラブに入会させていただき、あらゆる先輩に育てていただき、今日ある訳でございますが、この間例会時における、まさしくロータリアンらしい大人の雰囲気、そのクラブ独特の言葉に言い表せない空気といいますか、カラーを肌で感じ、それを今も忘れないでおります。私が自分なりに、この一年間のテーマを作るとしましたら、それは「原点に戻ろう」でございます。それぞれのクラブ。以前のクラブの空気を少しでも取り戻せないかと願っております。品のいいクラブ。それを突き詰めて言えば、それは相手を思う気持ち。相手の気持ちになってモノを考える。つまり思いやり、それに尽きるのではないかと思います。それぞれのクラブの先輩が守り伝えてきたものは、きっと思いやりなのかもしれません。高山に生まれた美意識を示す一つの言葉に「公道(こうと)」という言葉がございます。「こうと」とは一言で申し上げれば「謙虚」ということでございます。言い換えれば「控えめ」ということでしょうか。又「こうと」であるためには自分自身にゆとり、余裕がないといけないと思っております。そういった「こうと」なる人生の手本になる会員が、各クラブには沢山いらっしゃいます。そういう方々が例会と一緒に過ごすだけでも、あらゆる面でプラスになると思っております。

さて、本年度2630地区岡田ガバナー。昨年十二月鈴鹿での最初の研修会に参加させていただいて以来、ガバナーの思いを色々聞かせていただきました。ここだけの話ですが、最初お会いした頃は、あらゆる会合の会費の半分を寄付しなさいとか、会合での物言いが強くて、戸惑っておりましたが、何回か研修会に出席をさせていただくうちに、非常に物腰、言動が柔らかくなってきて、ガバナーがおっしゃるには、我々AGは、最初と最後の訪問をしっかりやればいいんで、決められた年四回訪問する必要はないんで、AG訪問より各クラブの例会が一番大事だとおっしゃっております。各クラブの会長が中心となり、クラブを楽しく立派に運営すること。それが強いて言えば、R I会長のテーマ「世界へのプレゼントになろう」に繋がっていくようです。そして、岡田ガバナーの最近の口癖は、例会は「元気に明るく楽しく適当に」でございます。どうやら、それがガバナーの真のお気持ちのように思っております。

さて、ロータリアンクラブは例会時に国旗も掲げ歌もうたいます。何故なのでしょう？世の中には、色々な組織があります。例えば会社とか同好会等、具体的な目的をもってつくられるのが組織でございます。ロータリーという組織は、どちらかと言うと、奉仕部門を中心として社会貢献という抽象的な目標をもとに皆が団結している組織だと思います。その組織をまとめあげるにはいくつかの方法があると思っております。

アメリカの小中学校では、朝、必ず国旗をあげて国歌を斉唱

世界へのプレゼントになろう

# 例会報告

します。何故かと言いますと、ご存知のようにアメリカは多民族国家であります。アメリカという人種はいません。いわゆる色々な国から集まってきていて、勿論、価値観も違います。その人たちが心一つにして「さあ、一日が始まるよ」。彼らは、朝の始まりは、この国旗のもとに、一緒になっているんだということを自覚するわけです。

次に色々なものをまとめるにはシンボルがあります。抽象的なものをまとめる一つのもがシンボルであり、ロータリーの場合、そのシンボルがロータリーの旗であります。あとは歌であります。歌をうたうことによって、人は感情が高ぶって共感を得ます。共感を得ることによって心が一つになります。アメリカの例にありますように、組織を一つにまとめるには、この旗と歌。これが非常に大切だと感じております。後一つ、大事なものはスローガンであります。ロータリーの場合、それは四つのテストであります。クラブによっては、歌をうたってから四つのテストを斉唱するクラブがいくつかありますが、このお陰でクラブがまとまっていくのではないかと考えております。

そして「ロータリーの使命とは、例会において会員を立派なロータリアンに育てるということにあります」ロータリーは寄付団体ではない。ロータリーは人作りであると刃田エレクトもおっしゃっています。週に一回の例会が、週に一度しかない例会に変わった。例会時間は一時間程度です。で過ごす時間は短いのですが、しばらく会えない会員がいれば寂しくなり、いつもと様子が違えば心配になり、まるで家族のように大切に思い、家族のように大切にさせていただける。ロータリアンとしてのさまざまな活動への参加を通じて心を豊かにできるということ。その心の豊かさを自分の仕事に生かし、地域社会の豊かさに繋げていけるように固くて強い絆で結ばれたロータリーという輪の中の一人にいたい。皆がいてほしいと思います。

「最も奉仕するもの最も報われる」「入って学び出でて奉仕せよ」等、ロータリーだけに使われる言葉も色々でございますが、奉仕は義務ではなくロータリアンの心の欲求だと思います。奉仕はするという精神ほど、人間社会において尊いものはございません。「世の中で一番尊いことは、人のために奉仕して、けっして恩に着せないことです」と福澤諭吉先生の心訓の中にあります。これこそが、人間の生きる道として最高のものではないでしょうか。この崇高な精神をもって、このロータリーという輪を広げていきたいと思っております。それぞれのお立場で無理のない奉仕を実践していただければと思っております。

この一年間、濃飛グループガバナー補佐としての任務、その道に対する私の才能ははなはだ無能でございますが、皆様方のお力をいただいて務めてまいりたいと思っております。勿論、不足がございましたら何なりとお教えをいただきたいと存じます。社会情勢は依然として先行き不透明、相変わらずの厳しさでございますが、皆様方のクラブだけは元気でいてほしいと思っております。又、楽しい例会には笑顔が大事だと思います。誰もが好み、誰の心にも潤いを与えるものが笑顔だと思います。笑いによって来るものは福だけではなくて、健康や元氣もやってきます。笑顔こそ、いつでもどこでも誰にでもあげられます。どんなに小さなことにも心を動かす感受性があれば人生が明るくなり、微笑と友達になれると思います。そして何よりも私の財産は、皆様方のクラブを通じて多くの人とお付き合いをさせていただいていることでございます。どうぞこの一年皆様と親しくお付き合いをさせていただき、この重任を全うしてまいりたいと思っております。何卒、過分のお力添えをお願い申し上げます。はなはだ無言でございますが、ご挨拶とさせていただきます。

十月十二日(月)(体育の日)アソシア高山リゾートにおいてIMを開催させていただきます。一人でも多くのご出席をお願いいたします。

## クラブアッセンブリー



### 社会奉仕・ヘルス委員長

向井 公規

今年度の社会奉仕、ヘルス委員会委員長をさせていただき事となりました、向井公規です。

メンバーは、副委員長に阪下六代さん、委員に田近毅さん、垣

内秀文さん、西村直樹さんの5人で取り組みますのでよろしくお願い致します。

基本方針は、例年と大きな変化はございませんが、以下の2点となります。

- ・ロータリークラブと社会奉仕活動との関わりに付いて理解を深め実践する。
- ・ロータリー会員の健康増進を図る。

予算と活動計画は下記の通りとなります。

#### 1 加入団体会費

高山市民憲章推進協議会に10,000円

高山市社会福祉協議会に5,000円

#### 2 ゲストスピーチは8月21日と来年3月25日の2回を予定しております。

会報等でも、「ロータリーには会員内に素晴らしい実績や活動を残されている方が多数みえるので、会員の方の卓話も推奨されているとのことで、8月21日には当クラブの門前庄次郎さんに、「地域のまちづくりへの想い」というテーマでお話を頂くことになりました。また3月25日は、健康をテーマにスピーチをお願いする予定なのですが、スピーチだけではなく、ヘルスチェックも交えようと思っておりますので、予算は30,000円をお願いさせていただきました。

#### 3 ソフトミニバレー大会

第64回、第65回にそれぞれ50,000円、大会への参加費として12,000円、練習費として10,000円

すでに動き出していますが、8月2日の第64回大会では1チーム参加する事となります。

以上よろしくお願ひいたします。

### 環境保全委員長

長瀬 達三

皆様こんにちは。今年度、環境保全委員長を拝命いたしました長瀬です。最年少不良会員ですがよろしくお願ひします。

委員会メンバーは、折茂先生が副委員長で、・・・あとはメンバーを紹介しました・・・

当委員会の活動方針は、高山市が考える環境方針を深く理解し、ロータリーとして環境活動に参画するです。

具体的な活動内容は、基本的に前年度と変わりはありません。3月18日に予定している担当例会では、高山市の環境政策部より、しかるべき担当の方をお招きして、講師例会を行う予定です。現在、環境政策部と調整中です。

また、前年度は親睦委員会と合同で新緑例会時に環境活動を実施いたしました。今年度も同様な活動方針です。こちらも、現在委員会にて協議中です。

以上よろしくお願ひいたします。



# 例会報告

## 青少年育成委員長

大村 貴之

副委員長：井上正 委員：岡田賛三、菱川正臣、杉山和弘

主な活動は、

1. 高山あすなる会・小中学校木工コンクール協賛 20,000円  
9月中旬に木工作品展が行われます。
2. 高山市スポーツ少年団に協賛 50,000円
3. 義務教育課程9ヵ年皆出席表彰 300,000円  
3月4日例会時に校長会代表の校長先生にお越しいただき、代理授与を行います。
4. 「キャリア教育を考える会」出前講座 2月に日枝中学校1・2年生を対象に行います。たくさんの講師が必要となりますので、ご協力をお願いします。
5. ゲストスピーチ 10,000円 3月4日例会時に校長会代表の校長先生にお越しいただき、講話をしていただきます。1年間宜しくをお願いします。



## <ニコニコボックス>

### ●濃飛グループガバナー補佐 洲岬 孝雄 様

この度濃飛グループガバナー補佐を拝命いたしました。至らぬものですが宜しくお願いいたします。

### ●古橋 直彦さん、遠藤 隆浩さん

国際ロータリー第 2630 地区濃飛グループガバナー補佐 洲岬 孝雄 様 ようこそお越し下さいました。一年間宜しく願いたします。

### ●伊藤 松寿さん、挾土 貞吉さん、新田 敬義さん、田近 毅さん、平 義孝さん、鍋島 勝雄さん、門前 庄次郎さん、山下 明さん、堺 和信さん

今年度の濃飛グループガバナー補佐 洲岬 孝雄 様 の向こう一年間のご活躍とご健勝を祈念して。

### ●米澤 久二さん

洲岬ガバナー補佐のご来訪を歓迎します。家内がいつもお世話になりありがとうございます。今後家内と子どもご指導賜りますようお願いいたします。

### ●小森 丈一さん

①洲岬AGのご訪来を歓迎いたします。

②13日に高山中央RCにメイクアップ（メイキャップとは言いません）に行き行って感心した点がいくつかありました。

(イ) 当日の出席率は91%で5週続けて90%を超えたとの事。5人以上休むと90%を切るのでは休まない様にと忠告有り。

(ロ) 会長かSAAの配慮か分かりませんが、私の席の右側に剣田GE左側に前越会計長を配し、話し易い酒配列がなされ気配りを感じました。

(ハ) 当日はクラブアッセンブリーでしたが、始める前に会長からアッセンブリーの何たるかの説明が有り、入会されたばかりの人にも、良く理解されたのではないかと、思いました。

(ニ) もっとも感心させられたのは、出前講座は やりっぱなしでは無く、どう活かされたか?を来年3月、講座を開き見届けをすると発表があり、或る程と感心しました。

少し長文になりましたが、参考になればと思ひ紹介をさせて頂きました。

### ●下屋 勝比古さん

①先日、ユニバーシアード大会にて我がボートチームは金2銅1と全て入賞の好成績でした。目立ちませんが私の力も少しありました。

②インターアクト飛騨地区研修会、会長幹事および洲岬様のご出席ありがとうございました。

### ●杉山 和宏さん

本日3回目の例会、まだまだ良く分かっておりませんが、皆様から色々教えていただき感謝いたしております。改めて宜しくお願いいたします。P. S. 申し遅れましたが先日のゴルフ大会、名誉あるホテル賞ありがとうございました。

### ●中島 弘人さん

地元でコーチの手伝いをしている長森中ハンドボール部が市大会で優勝出来ました。何とか県大会まで行って欲しいものです。

### ●田中 晶洋さん

6月にオープンした医療ケア付き住宅すみれハイツで、先日入居者の方を看取る事がありました。普段坊主の仕事では人の亡くなった後ばかり見ていましたが、人が亡くなる前のドラマをまざまざと見せられ、身が引き締まる思いがしました。



世界へのプレゼントになろう